

平成 14 年 8 月 9 日

各 位

会 社 名：伊藤忠エネクス株式会社  
コード番号：8133(東証・大証第一部)  
問合せ先：執行役員 財務経理部長  
有 満 修 司  
TEL：03 5436 8202

## 平成 15 年 3 月期 第 1 四半期の業績 及び 業績予想について

平成 15 年 3 月期第 1 四半期（平成 14 年 4 月 1 日～平成 14 年 6 月 30 日）の業績及び今期の業績予想について、下記の通りお知らせ致します。

記

### 【1】当四半期の業績

（単位：百万円）

	平成 15 年 3 月期 第 1 四半期 自 平成 14 年 04 月 01 日 至 平成 14 年 06 月 30 日		（ご参考）平成 14 年 3 月期 第 1 四半期 自 平成 13 年 04 月 01 日 至 平成 13 年 06 月 30 日	
	連結	単体	連結	単体
	売上高	122,712	97,035	131,951
営業利益	494	241	1,441	738
経常利益	462	895	1,253	1,286
当期純利益	377	357	724	795

（注） 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。  
四半期の数値につきましては、監査法人による会計監査は受けておりません。  
四半期業績の開示は、平成 14 年 3 月期第 1 四半期より実施しております。

### 【2】営業の概況＜連結＞（平成 14 年 4 月 1 日～6 月 30 日）

#### <1> 市場環境

当四半期（平成 14 年 4 月 1 日～6 月 30 日）における日本経済は、国内景気の低迷による消費マインドの萎縮や株式市況の低迷及び急激な円高により、企業活動においては設備投資に対する慎重姿勢などが根強く、依然不透明な状況が続いております。

一方で、6 月の日銀短観によりますと、幾つかの業種で企業マインドが上向き一部の指標では景況感の下げ止まりも見られました。

係る経済環境の下、国内の石油製品販売量は、前年同期比でガソリンが 1.4%の増となりましたが、軽油で 3.6%の減、灯油で 9.0%の減、重油も 11.0%の減で、燃料油合計では 4.9%の減となり、LP ガスにおいては前年同期比 1.9%の減となりました。一方、価格面においては、セルフ SS の本格普及により販売競争が激化しており市況の混乱が見られました。産業用の燃料油市況においても価格転嫁が進まず軟調に推移しました。一方、LP ガス業界では一部に小売販売の競争激化はあるものの、輸入価格が比較的安定したこともあり、堅調に推移しました。

このような状況において、当社グループの販売数量は前年同期比でガソリンは 1.6%の増、軽油は 0.5%の増となりましたが、灯油が 9.1%の減、重油が 1.3%の減となり燃料油全体では 0.7%の減、LP ガスは 1.3%の増となりました。

#### <2> 事業別概況

- (1) 産業マテリアル事業は、販売数量の燃料油合計で前期比微増となりましたが、景気の低迷を受け産業用需要家からの価格下げ圧力が強く、原油価格の上昇に伴う価格転嫁も難航し、厳しい状況が続きました。
- (2) カーライフ事業では、SS（サービス・ステーション）個々の経営改善、セルフ化の推進、自社ブランドである「忠ボーイ」SS を中心とした新規系列化を促進した結果、SS 数で前期末比 31 カ所の純増となり、

2,152 ヲ所となりました。その結果、ガソリンの販売数量は前期比微増となりました。

- (3) ホームライフ事業では、LP ガス輸入価格の安定により、昨年を上回る収益の確保を図る事ができました。更に各地での物流統合や合理化によるコスト削減に取り組み、地域販売会社の体質強化も着実に実施してまいりました。またライター及び点火棒の製造子会社である株式会社東海に関しては、中国新工場の稼働開始の遅れ、急激な円高に伴う為替差損などにより、厳しい状況となりました。

<3> 経営成績の概況

以上の結果、売上高は、販売単価の下落と、前期に事業領域の再定義に基づき食品チェーンのチコマートを撤退した事等に伴い1,227億1千2百万円（前年同期比7.0%の減）となりました。経常利益においては販売管理費の削減等効率化の徹底を図りましたが、主に産業用需要家向け燃料油における価格転嫁の難航及び株式会社東海における為替差損等により4億6千2百万円（前年同期比63.1%の減）となりました。更に保有株式の評価損4億2千5百万円の計上等で当期損失は3億7千7百万円（前年同期比11億1百万円の減）となりました。また単体におきましては、売上高970億3千5百万円（前年同期比4.2%の減）、経常利益8億9千5百万円（前年同期比30.4%の減）、当期純利益3億5千7百万円（前年同期比55.1%の減）となりました。

【3】平成15年3月期の業績予想の修正

<1> 連結業績予想

（単位：百万円）

	平成15年3月期・通期 自平成14年04月01日 至平成15年03月31日			平成15年3月期・中間期 自平成14年04月01日 至平成14年09月30日		
	売上高	経常利益	当期利益	売上高	経常利益	当期利益
前回業績予想（平成14年5月17日）：A	564,000	10,100	5,500	263,000	3,100	1,400
今回修正予想（平成14年8月9日）：B	559,000	9,600	4,900	258,000	2,600	800
増減額（B-A）	5,000	500	600	5,000	500	600
増減率	0.9%	5.0%	10.9%	1.9%	16.1%	42.9%
前期実績（平成14年3月）：C	539,265	9,610	5,083	266,082	4,025	2,014
増減額（B-C）	+19,735	10	183	8,082	1,425	1,214
増減率	+3.7%	0.1%	3.6%	3.0%	35.4%	60.3%

<2> 修正理由について

米国経済の先行きに不透明感もあり、国内の景況感も明らかな回復傾向がみられない状況の下、経営コストの削減とSS拠点数の拡大及びLPガス小売件数増加による収益構造強化を図ってまいりますが、産業用燃料油に関しては、販売数量の増加基調は維持できるものの、厳しい収益環境が続くと予想しております。これらの結果、当四半期における保有株式の評価損及び為替差損等の影響はあるものの、平成15年3月期・通期は、売上高で5,590億円、経常利益は96億円、当期利益は49億円を見込んでおります。

<3> 単体業績予想

単体に関しては、業績予想に修正はございません。

（単位：百万円）

（ご参考）	平成15年3月期・通期 自平成14年04月01日 至平成15年03月31日			平成15年3月期・中間期 自平成14年04月01日 至平成14年09月30日		
	売上高	経常利益	当期利益	売上高	経常利益	当期利益
前回業績予想（平成14年5月17日）	440,000	4,500	2,200	198,800	2,000	950

業績予想に関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の予想数値や施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

以上